

第36回都道府県医師会新型コロナウイルス感染症担当理事連絡協議会  
次 第

日時:令和4年10月11日(火)  
午後 4 時30分～6時00 分  
場所:日本医師会館 507・508 会議室  
(※TV 会議システム使用)

司会:日本医師会常任理事 神村 裕子

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 議 事

(1)新型コロナウイルスワクチン等について(厚生労働省より)

大坪 審議官

高城 参事官 (健康局 予防接種担当参事官室長)

松岡 参事官 (健康局 結核感染症課)

金光 予防接種対策推進官

(2)COVID-19JMAT 保険の改定について

(3)令和 4 年度 新型コロナウイルス感染症対応 休業補償制度および医療従事  
者支援制度について

4. 会長総括

5. 閉 会

# 厚生労働省 健康局

## 予防接種担当参事官室 提出資料

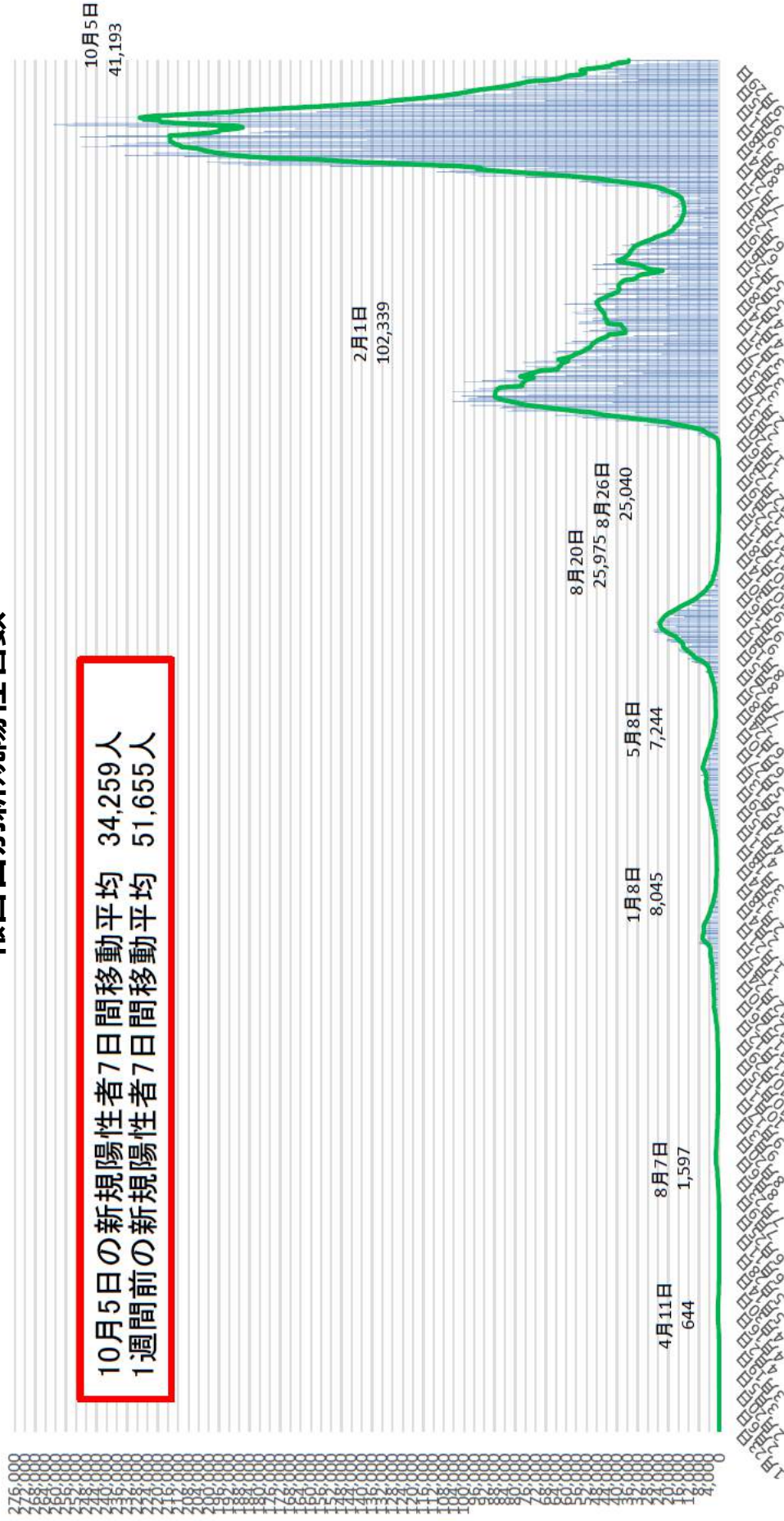
令和4年10月11日

# 1. 新型コロナウイルスワクチン接種の現状

## 新型コロナウイルス感染症の国内発生動向

### 報告日別新規陽性者数

令和4年10月5日0時時点



- ※ 1 都道府県から数日分まとめて国に報告された場合には、本来の報告日別に過去に遡って計上している。なお、重複事例の有無等の数値の精査を行っている。
- ※ 2 令和2年5月10日まで報告がなかった東京都の症例については、確定日に報告があったものとして追加した。
- ※ 3 各自治体のプレスリリース及びHER-SYSデータを基に集計しているため、自治体でデータの更新が行われた場合には数値が変動することとなる。
- ※ 4 広島県においては、HER-SYS入力時間が他の都道府県と異なることから、厚生労働省の集計値と広島県の発表値とで1日ずれが生じていることに留意。

厚生労働省ホームページの「新型コロナウイルス感染症情報特設ページ」:

「新型コロナウイルス感染症について」> 「国民のみならずま向けの情報」> 「国内の発生状況など」> 「国内の発生状況について」

「国内の発生状況など」> 「参考資料」> 「国内の患者発生に関する参考資料」> 「新型コロナウイルス感染症の国内発生動向 (※報告日別新規陽性者数)」より抜粋 ([https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html#h2\\_1](https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html#h2_1))

# 国内の新型コロナウイルスの接種状況について

出典：首相官邸HP

これまでの総接種回数： **325,148,064**回（令和4年10月7日公表）※1

増加回数： **+172,042**回（令和4年10月6日比）

（うち3回目接種：**+19,260**回、うち4回目接種：**+148,211**回）

（総接種回数の内訳）※2

	全体					
	うち高齢者※3		うち小児接種※4		職域接種※5	
	回数	接種率	回数	接種率	回数	接種率
総接種回数	325,148,064	—	126,182,954	—	3,273,956	23,684,593
うち1回以上接種者	104,228,496	81.5%	33,284,608	92.6%	1,642,892	9,744,521
うち2回接種完了者	102,866,008	80.4%	33,198,993	92.4%	1,566,942	9,655,339
うち3回接種完了者※6	82,480,552	65.5%	32,544,169	90.6%	64,122	4,284,733
うち4回接種完了者※6	35,573,007	—	30,980,958	71.5%		
				82.5% ※7		
オミクロン株対応ワクチン接種完了者	736,046	0.6%	261,720	0.7%		

# オミクロン株に対応した新型コロナウイルスの接種体制確保について

## 1. 基本的な考え方

- 毎年、年末年始に感染が流行していることを踏まえ、年内に全接種対象者が接種可能となる体制を整備すること。

## 2. 接種対象者について

- 初回接種を完了した12歳以上の者であって、最終の接種から5か月以上（※）経過した全ての住民を対象に実施する。

## 3. 接種の開始時期等について

- 令和4年9月20日より接種を順次開始。**BA.4-5対応型ワクチンの接種は10月13日より開始する予定。**
- 9月半ば過ぎからは、まずは、現行の4回目接種の対象となっており、当該接種を未実施であるものを対象に接種する。
- 4回目接種の一定の完了が見込まれた自治体においては、配送ワクチンの範囲内で、社会機能を維持するために必要な事業の従事者や年代別など、その他の初回接種が完了した者へ移行する。
- これら以外の初回接種を完了した者への接種は、引き続き、10月半ばを目的に準備を進める。
- 特例臨時接種の実施期間を令和4年度末（令和5年3月31日）まで延長することとする。

## 4. ワクチンの種類及び供給について

- 分科会では、オミクロン株と従来株に対応した2価ワクチンを使用することが妥当であるとされ、**亜系統（BA.1又はBA.4-5）の違いにかかわらず、従来ワクチンを上回る効果が期待されている。**
- **BA.4-5対応型の使用開始後も、BA.1対応型を廃棄することなく、接種可能なワクチンを使用して、速やかに接種を進めること。**
- 供給スケジュールの詳細については、**9/28事務連絡（ファイザー）、9/28事務連絡（モデルナ）**を参照すること。

## 5. 予算について

- 体制確保に必要な費用については、引き続き、国が全額を負担することとする。

## 6. 接種券の発送準備について

- まずは、3回目完了者であって次回の接種券が送付されていない者の接種券について、早急に発送すること。
- 従来ワクチンの4回目接種完了者については、10月末までに送付するよう努めること。
- その他の者へ改めて配布する場合は、一律新規配布、申請方式による配布など、自治体ごとの柔軟な対応を行うて差し支えないこと。

## 7. 事務運用について

- 自治体向け手引きに沿って対応すること。

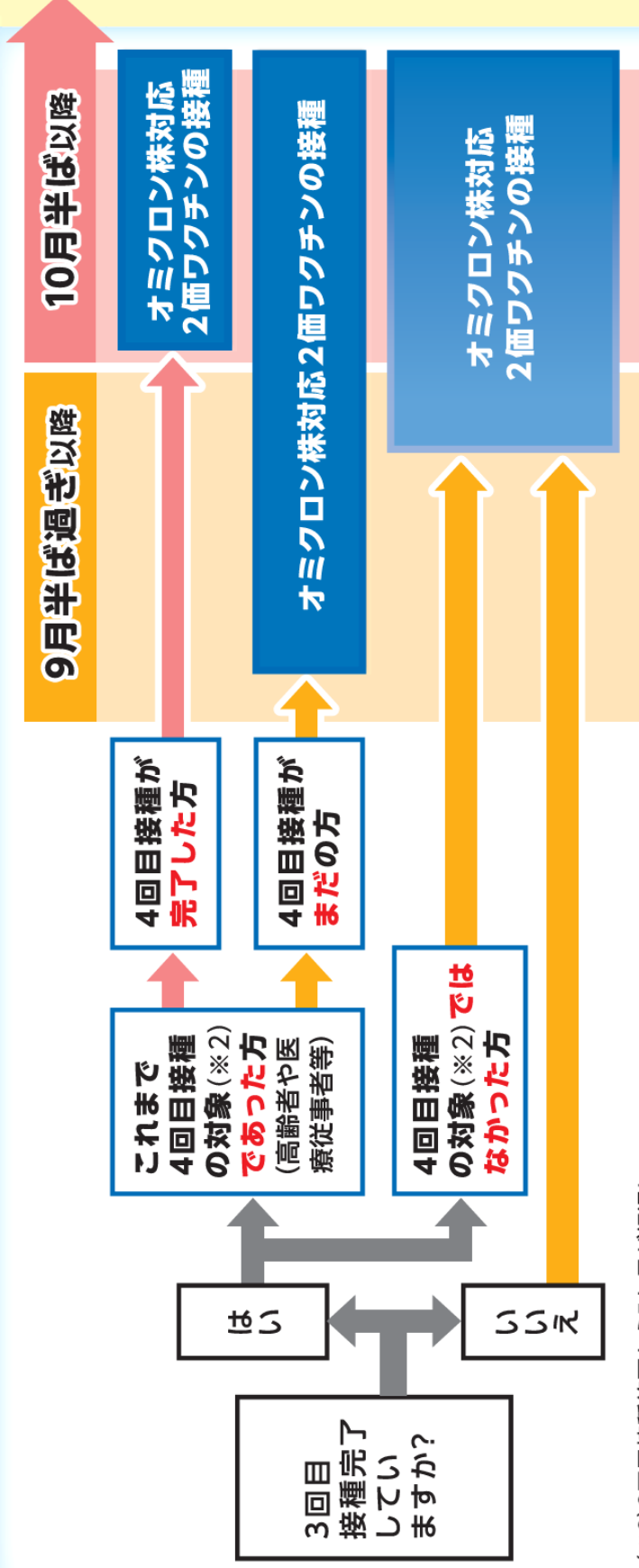
## 8. その他

- 各自治体においては、できるだけ長い期間で予約枠が提供できるよ<sup>4/34</sup>ら努めること。**なお、BA.1対応型又はBA.4-5対応型の明示は不要。**
- 住民に対して、一時的に予約が混雑した場合であっても、令和4年中には全ての方が接種可能な体制を整備している旨、周知すること。<sup>4</sup>

※赤字が更新部分

# オミクロン株対応ワクチンの接種対象者及び接種の開始時期について

## 接種対象：初回接種（1・2回目接種）が完了している方



(※2) 3回目接種終了から5か月が経過し、

① 60歳以上の方 ② 18歳以上で基礎疾患を有する方その他重症化リスクが高いと医師が認める方 ③ 医療従事者等及び高齢者施設等の従事者など

## 初回接種（1・2回目接種）がまだの方

**従来型ワクチン(※3)による接種を完了してください。**  
接種から5か月が経過した後に、オミクロン株対応2価ワクチンを追加接種することが可能になります。

(※3) 新型コロナウイルスの従来株に対応した1価ワクチン

# オミクロン株対応ワクチンの接種対象者数（令和4年10月3日時点）

BA.1対応型ワクチン及びBA.4/5対応型ワクチンの2つを合わせて、対象者の方の接種に必要な量を配分します。

（単位：万人、万回）

接種が可能な時期	～R4.10月	R4.11月	R4.12月	累計
	～R4.5月	R4.6月	R4.7月	
60歳以上	4回目接種完了者	1	72	1,222
	3回目接種完了者（かつ4回目未接種）：4回目接種対象者	782	26	17
	2回目接種完了者（かつ3回目未接種）：3回目接種対象者	65	1	1
	4回目接種完了者	0	4	47
12～59歳	3回目接種完了者（かつ4回目未接種）：一部、4回目接種対象者	3,263	247	169
	2回目接種完了者（かつ3回目未接種）：3回目接種対象者	1,719	9	6
合計	5,830	358	1,463	7,652

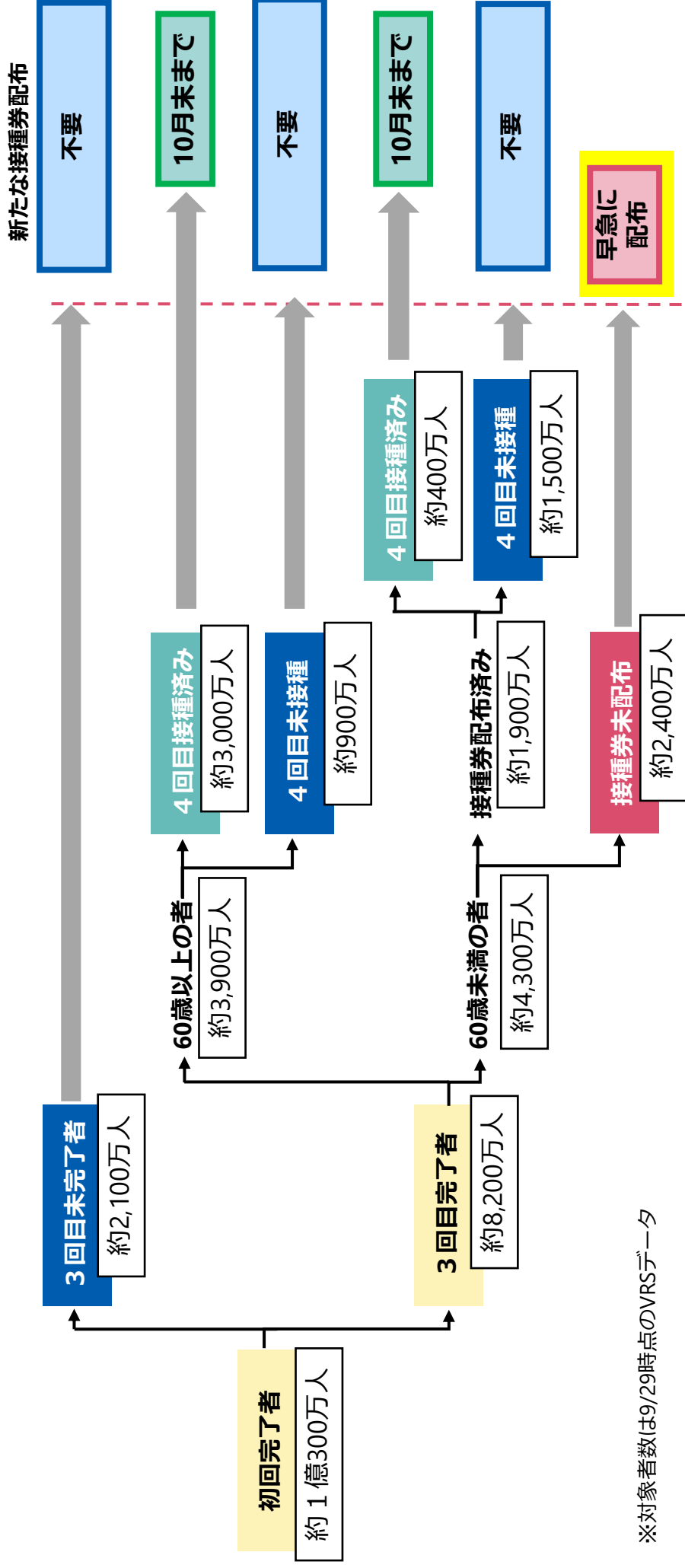
表の注釈： 対象者数は令和4年10月2日までのワクチン接種記録システム（VRS）への報告等から集計している。

上記は、**接種間隔が現行と同じ5か月である場合の数値**であるが、**接種間隔短縮（※）後、対象者数は変動する旨留意が必要。**

（※）今後海外の科学的知見等を踏まえて短縮の方向で検討し、**6月10日**までは結論を得る予定。

# オミクロン株対応ワクチン接種に向けた接種券の配布について

- まずは、早期に接種時期を迎える“3回目接種が完了した後、次回の接種券が送付されていない者”について早急に配布する。
- 4回目接種完了者については、接種間隔短縮の可能性も踏まえ、10月末までの配布に努める。
- その他の者に対して改めて配布する場合は、一律新規配布、申請方式による配布など、自治体ごとの柔軟な対応を認める。



※対象者数は9/29時点のVRSデータ

## 【一律新規配布の際の留意点】

○ 重複使用しないよう、オミクロン株対応ワクチン接種は、現時点では1人1回の実施であることを住民に周知。

## 【接種券を新たに配布しない住民への対応に関する留意点】

○ 接種券が新たに配布されない住民に接種の時期等を認識して「**7月**」**34**う広報を行うとともに、既存の接種券が使用可能であること7（なくした場合は改めて申請を要すること）の周知。



## 使用するワクチンについて

オミクロン株対応2価ワクチン	1・2回目接種対象者	3回目以降の接種対象者	
		12歳以上	18歳以上
ファイザー社ワクチン	×(使用不可)	○	○
モデルナ社ワクチン	×(使用不可)	×	○

■2022年10月時点では、オミクロン株対応2価ワクチンは、11歳以下は接種対象となりません。

※情報提供資材（リーフレット）より抜粋・一部改変

## 2価ワクチン（オリジナル株・オミクロン株） 配送スケジュール

クール名称	周知時期 (事務連絡発出日)	配送週	累計の ワクチン量	10/7時点
ファイザー第1クール (BA.1) PFBA.1_01 : 約1,013万回分	2022/9/2	9/19 週	約1,113万回分	配送済
モデルナ第1クール (BA.1) MDBA.1_01 : 約100万回分	2022/9/2	9/19 週		
ファイザー第2クール (BA.1) PFBA.1_02 : 約1,013万回分	2022/9/2	9/26 週	約2,226万回分	配送済
モデルナ第2クール (BA.1) MDBA.1_02 : 約100万回分	2022/9/2	9/26 週		
ファイザー第3クール (BA.1) PFBA.1_03 : 約777万回分	2022/9/2	10/3 週	約3,103万回分	配送済
モデルナ第3クール (BA.1) MDBA.1_03 : 約100万回分	2022/9/13	10/3 週		
モデルナ第4クール (BA.1) MDBA.1_04 : 約200万回分	2022/9/13	10/10 週	約3,806万回分	配送中
ファイザー第1クール (BA.4/5) PFBA.4/5_01 : 約503万回分	2022/9/28	10/10 週		
ファイザー第2クール (BA.4/5) PFBA.4/5_02 : 約1,903万回分	2022/9/28	10/17 週 & 10/24 週	約5,909万回分	
モデルナ第5クール (BA.1) MDBA.1_05 : 約200万回分	2022/9/28	10/24 週		
モデルナ第6クール (BA.1) MDBA.1_06 : 約200万回分	2022/9/28	10/31 週	約8,006万回分	
ファイザー第3クール (BA.4/5) PFBA.4/5_03 : 約1,897万回分	2022/9/28	10/31 週 & 11/7 週		

## 【ワクチン接種対策費負担金】 （接種の費用）

予算額：4,319億円（令和2年度三次補正）+5,356億円（令和3年度補正）

<概要>

- ・単価：2,070円／回
- ・時間外・休日の接種に対する加算（時間外：+730円、休日：+2,130円）
- ・6歳未満の接種に対する加算：+660円



## 【ワクチン接種体制確保事業】 （自治体における実施体制の費用）

予算額：3,439億円（令和2年度三次補正等）+ 3,301億円（令和3年度予備費）  
+ 7,590億円（令和3年度補正）

<概要>

- 接種の実施体制の確保に必要な経費
- 集団接種など通常の予防接種での対応を超える経費 等



## 【新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金】予算額：818億円（令和3年度予備費）+4,570億円（令和3年度補正） 個別接種促進のための支援策①～③

### ①「診療所」における接種回数の底上げ

- ・週100回以上の接種を指定する2か月毎の間に4週間以上行う場合 ⇒ +2,000円／回
- ・週150回以上の接種を指定する2か月毎の間に4週間以上行う場合 ⇒ +3,000円／回

※1週間のうち、少なくとも1日は、土日祝日、夜間（18:00以降）、診療所の時間外に接種体制をとること。

### ②接種施設数の増加（診療所・病院共通）

※病院への支援は、11月末までとする。

医療機関が50回以上／日のまとまった規模の接種を行った場合は、10万円／日（定額）を交付。（①とは重複しない）

※土日祝日、夜間（18:00以降）、医療機関の時間外に接種体制をとること。



## 集団接種

### 都道府県が実施する大規模接種会場の 設置等に必要となる費用を補助

<概要>

- 都道府県がワクチン接種を実施するため  
に設置する大規模接種会場に係る設備整備  
等の支援を実施  
（使用料及び賃借料、備品購入費等）

### 時間外・休日のワクチン接種会場への医療従事者派遣事業

<概要>

- 時間外・休日の医療機関の集団接種会場への医師・看護師等の派遣について、  
派遣元への財政的支援を実施  
・医師 1人1時間当たり 7,550円 ・看護師等 1人1時間当たり 2,760円  
※地域の実情に応じて都道府県知事が必要と認める地域への派遣を対象

集団  
接種  
の  
扱  
い

### ③「病院」における接種体制の強化

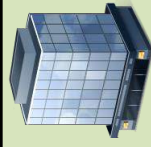
特別な体制を組んで、50回以上／日の接種を週1日以上指定する2か月の間に4週間以上行う場合に、  
上記の医療従事者派遣事業と同様の仕組みを活用して交付

## 職域接種に対する支援策④

<概要>

外部の医療機関が出張して実施する職域接種であって、以下の条件に該当するものに対し、都道府県が設置する大規模接種会場に対する支援と同等の支援を実施。（1,000円（追加接種会場の場合は1,500円）×接種回数を上限に実費補助）

- ・ 中小企業が商工会議所、総合型健保組合、業界団体等複数の10業で構成するもの
- ・ 大学、短期大学、高等専門学校、専門学校の職域接種で所属の学生も対象とし、文部科学省が定める地域貢献の基準を満たすもの



企業・大学

# BA.1対応型、BA.4-5対応型ワクチンの区別について（外形上の違い）


## BA.1対応型



バイアルに  
**赤いシール**を貼付。

※ファイザー社から周知予定の対応例  
（シールサンプルは、同社から配布）

（ロットシール） ※接種済証に添付

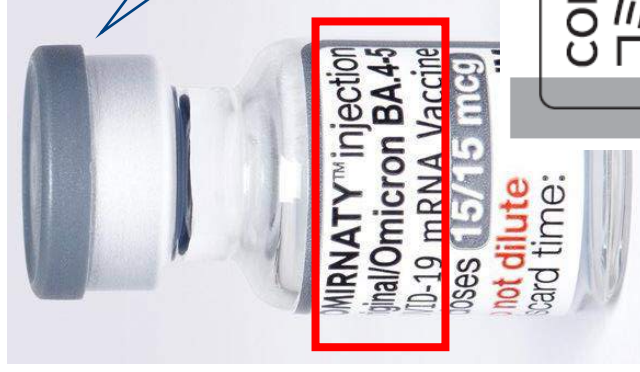
COMIRNATY<sup>™</sup> 12歳以上用  
コミナテイRTU筋注  
(起源株・オミクロン株BA.1)  
製造番号:XXXXXX  
製造販売:ファイザー株式会社  
BIONTECH 



QRコードから接種ワクチン情報  
を確認できます


(注) バイアル箱にも  
シール貼付及び  
「ファイザーBA.1」  
と明記。

## BA.4-5対応型



赤いシールを貼付  
しない。

（ロットシール） ※接種済証に添付

COMIRNATY<sup>™</sup> 12歳以上用  
コミナテイRTU筋注  
(2価:起源株/オミクロン株BA.4-5)  
製造番号:XXXXXX  
製造販売:ファイザー株式会社  
BIONTECH 



QRコードから接種ワクチン情報  
を確認できます

- BA.1対応型ワクチンとBA.4-5対応型ワクチンは、外形上、若干の違いに留まる（キャップの色は共通）。
- ただし、ファイザー社のBA.1対応型ワクチンとBA.4-5対応型ワクチンは、いずれも対象者や用法・用量が同じであるため、両者を混同しても間違い接種に俾なずぬ。

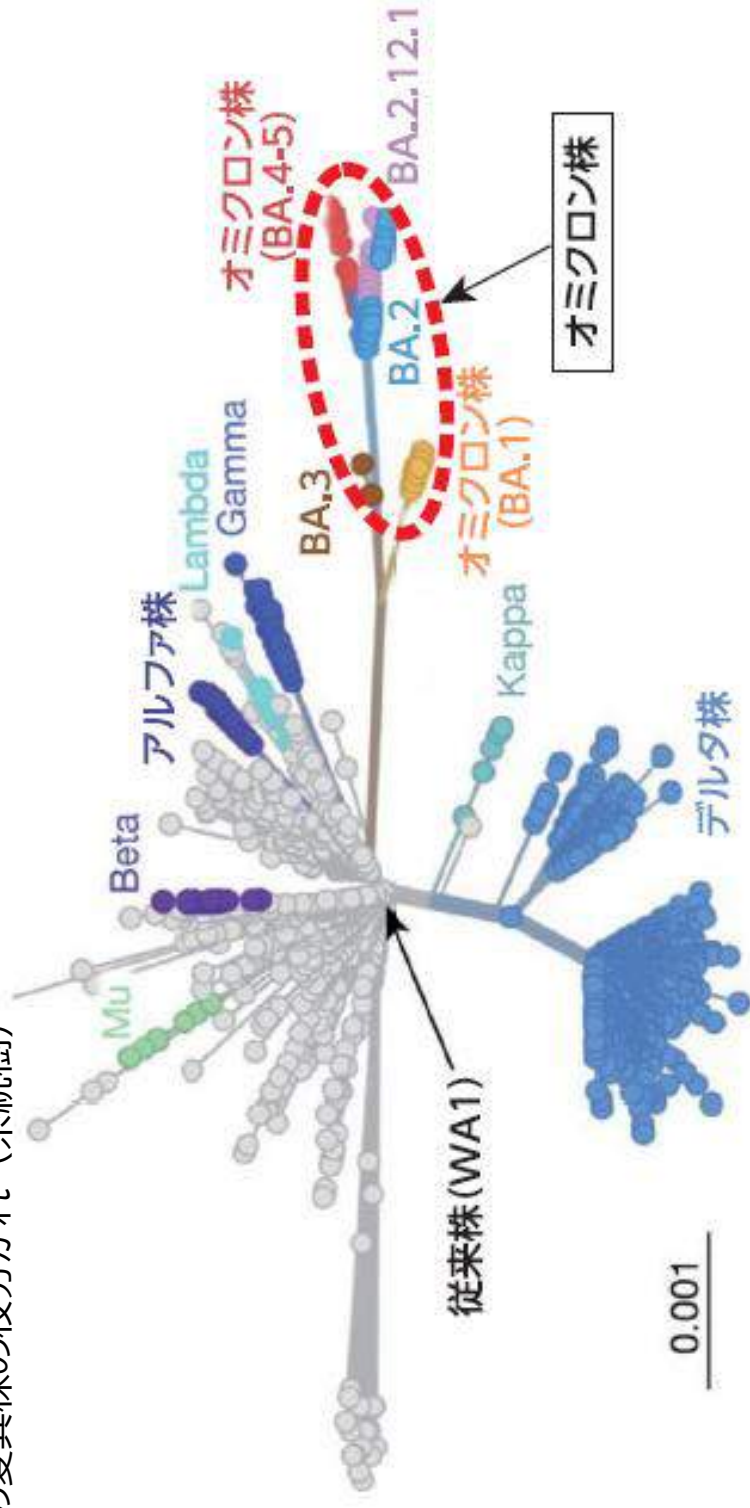
# オミクロン株対応の新型コロナウイルスの特性(令和4年10月11日時点)

キャップ カラー	ファイザー社 (オリジナル株の 12歳以上用ワクチン)	ファイザー社 (オリジナル株 /BA.1株の 2価ワクチン)	ファイザー社 (オリジナル株 /BA.4-5株の 2価ワクチン)	モデルナ社 (オリジナル株のワクチン)	モデルナ社 (オリジナル株 /BA.1株の 2価ワクチン)	モデルナ社 (オリジナル株 /BA.4-5株の 2価ワクチン)
特性						
希釈	生食塩液1.8mLで希釈	<u>希釈不要</u>		希釈不要	希釈不要	
接種量	初回 (1・2回目) : 0.3mL 追加 (3回目以降) : 0.3mL	追加 (3回目以降) : 0.3mL		初回 (1・2回目) : 0.5mL 追加 (3回目以降) : 0.25mL	追加 (3回目以降) : 0.5mL	
抗原量	オリジナル株30µg	<u>オリジナル株 15µg + BA.1株 15µg = 30µg</u>	<u>オリジナル株 15µg + BA.4-5 株15µg = 30µg</u>	初回 : オリジナル株100µg 追加 : オリジナル株50µg	<u>オリジナル株 25µg + BA.1株 25µg = 50µg</u>	<u>オリジナル株 25µg + BA.4-5 株25µg = 50µg</u>
1バイアル の単位	6回分 (特殊な針・シリンジ) 5回分 (一般の針・シリンジ)	6回分 (特殊な針・シリンジ)		初回 : 10回分 追加 : 15回分以上	<u>追加 : 5回分</u>	
最小流通単位 (一度に接種会場 に配送される最小 の数量)	195バイアル (特殊な針・シリンジを用い る場合は1,170回接種分、一 般的な針・シリンジを用いる 場合は975回接種分)	195バイアル (特殊な針・シリンジを用いる場 合は1,170回接種分) ※195バイアル入った1箱の大きさはオリ ジナル株のワクチンと同じ		10バイアル (初回 : 100回接種分) (追加 : 150回以上接種分)	10バイアル (追加 : <u>50回接種分</u> ) ※10バイアル入った1箱の大きさはオリ ジナル株のワクチンと同じ	
保管温度	-75°C ± 15°C : 15か月 -20°C ± 5°C : 14日 ※1回に限り、再度-90°C～ -60°Cに戻して保存可能 2～8°C : 1か月	-75°C ± 15°C : <u>12か月</u> -20°C ± 5°C : <u>不可</u> 2～8°C : <u>10週</u>		-20°C ± 5°C : 9か月 2～8°C : 30日 (※) ※9か月の有効期間中に限る	-20°C ± 5°C : 9か月 2～8°C : 30日 (※) ※9か月の有効期間中に限る	
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷蔵庫で解凍する場合、解凍及び希釈を1か月以内に行う (解凍後の再凍結は不可)</li> <li>室温で解凍する場合は、解凍及び希釈を2時間以内に行う (解凍後の再凍結は不可)</li> <li>希釈後、室温で6時間以内に使用する (希釈後に凍結することは不可)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>室温では24時間以内に使用する (一度針を刺した後は12時間以内に使用、解凍後の再凍結は不可)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>【一度針をさしたもので以降】 2～25°Cで12時間 (解凍後の再凍結は不可)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【一度針をさしたもので以降】 2～25°Cで12時間 (解凍後の再凍結は不可)</li> </ul>	

# オミクロン株の亜系統とワクチンの有効性について

- BA.1、BA.4-5はいずれもオミクロン株の種類（亜系統）。【下図参照】
- 現時点の知見を踏まえた専門家（「新型コロナウイルスの製造株に関する検討会」）による検討結果は以下のとおり。
  - 免疫を刺激する性質を比較した場合、従来株と現在流行しているオミクロン株との差と比較すると、オミクロン株の中での種類（BA.1とBA.4-5）の差は大きくないことが示唆。
  - オミクロン株対応ワクチンは、オミクロン株の種類（BA.1とBA.4-5）に関わらず、オミクロン株成分を含むことで、現在の流行状況では従来型ワクチンを上回る効果があることが期待
  - オミクロン株と従来株の2種類の成分が含まれることで、今後の変異株に対しても有効である可能性がより高いことが期待

## 新型コロナウイルスの変異株の枝分かれ（系統樹）



(※) 出典をもとに改編



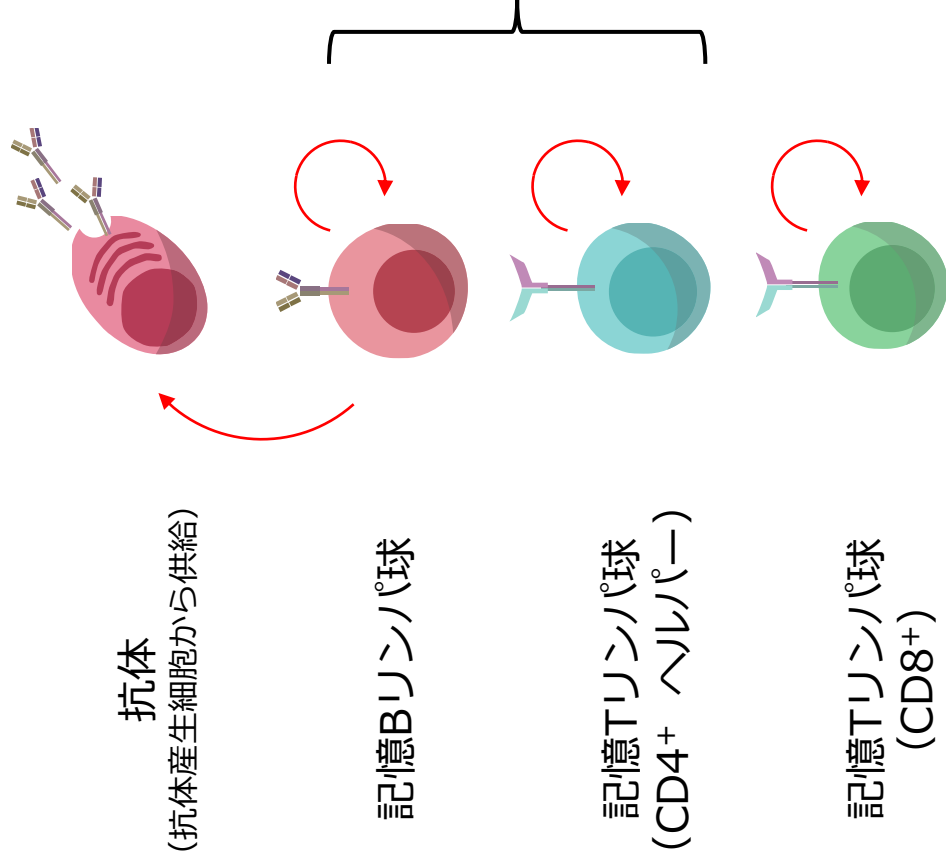
# ワクチン予防効果に貢献する免疫記憶リンパ球とウイルス排除機構について

第36回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会

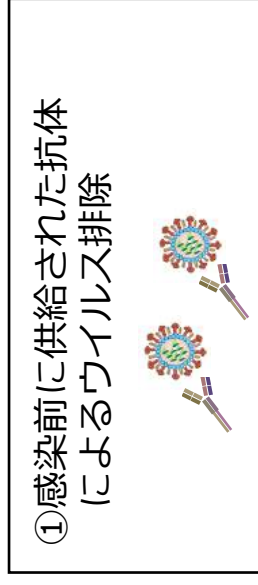
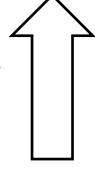
資料  
4

2022(令和4)年9月2日

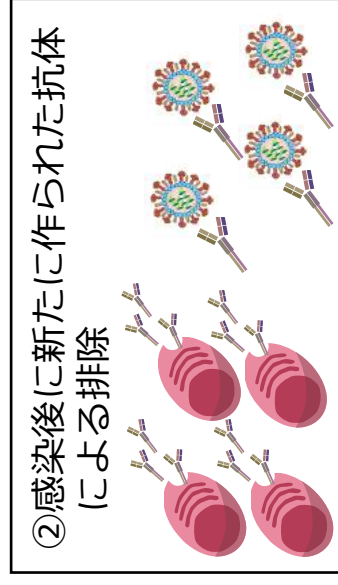
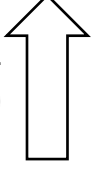
赤；追加接種後の細胞の動き



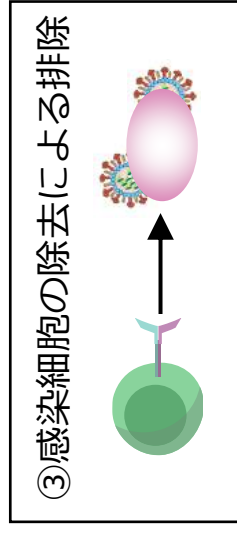
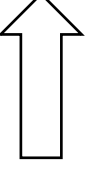
ウイルス  
感染



ウイルス  
感染



ウイルス  
感染



オミクロン株対応ワクチンにより、特に①と②の向上が期待される



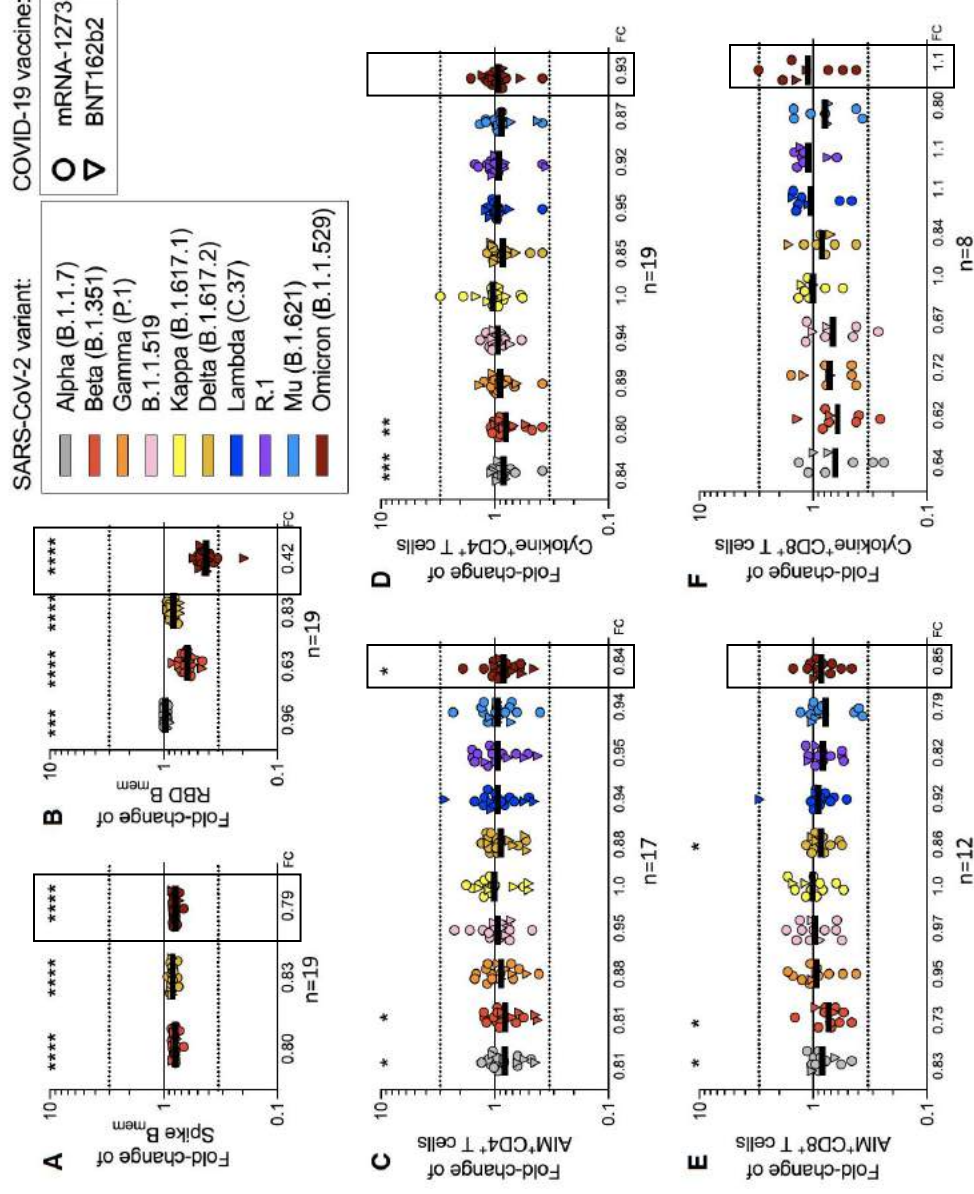
# 1 価の従来型ワクチンで誘導された記憶リンパ球のオミクロン株BA.1への反応性

## 研究方法

モデルナ社・ファイザー社製mRNAワクチン2回接種者 (n = 19) から、5-6ヶ月後に末梢血を採取し、記憶Bリンパ球とTリンパ球 (CD4、CD8) のオミクロン株BA.1への交差反応性を調べた。

## 研究結果

- ・記憶Bリンパ球 (RBD) の交差反応性する割合は**42%**
- ・記憶CD4+Tリンパ球の交差反応する割合は**84~85%**
- ・記憶CD8+Tリンパ球の交差反応する割合は**93~110%**



# 2022年秋以降の新型コロナウイルスの追加接種及びオミクロン株対応ワクチンの接種に係る諸外国の状況

オミクロン株対応ワクチンを使用した2022年秋以降の追加接種方針が各国から発表されている。


第38回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会	資料
2022(令和4)年10月7日	1


## 2022年秋以降の追加接種に関する方針 (接種間隔、使用ワクチン等)


- オミクロン株対応ワクチン (**BA.4/5対応型**) の使用を推奨。  
(CDC, 2022/9/1)
- 前回接種から少なくとも2か月の間隔を空けて接種が可能。  
(FDA, 2022/8/31)

### 国・地域 発出機関 2022年秋以降の追加接種予定対象者

 **米国** CDC/FDA • **12歳以上**の者に対する追加接種を推奨。  
(CDC, 2022/9/1)

 **英国** JCVI • 追加接種が提供されるべき：高齢者向け介護の入居者とスタッフ、第一線の医療・社会福祉従事者、**50歳以上**の者、5-49歳のハイリスク者、免疫抑制者と家庭内接触のある5-49歳の者、16-49歳の介護者。(2022/9/3)

 **カナダ** NACI • 追加接種が提供されるべき：**65歳以上**の高齢者、長期療養施設入所者やその他施設に居住する高齢者、12歳以上で基礎疾患を有する者、先住民集落居住者又は出身者、特定の人種や社会から疎外されたコミュニティに属する者、12歳以上の共同生活者。  
• 追加接種し得る：**12-64歳**の者。  
(2022/6/29)

 **フランス** HAS • 追加接種を推奨：**60歳以上**の者、免疫不全の者、重症化リスクのある者、妊娠中の者、ハイリスク児、医療・社会福祉従事者を含む免疫不全者又は弱者の近接者。

- 12歳以上の対象者に対してはオミクロン株対応ワクチン (**BA.1対応型**) または従来型ワクチンが使用されるべき。
- 5-11歳の対象者に対しては従来型ワクチンが使用されるべき。
- 前回接種から少なくとも3か月の間隔を空けて接種されるべき。(2022/9/3)
- 18歳以上の対象者に対してオミクロン株対応ワクチン (**BA.1対応型**) が提供されるべき。オミクロン株対応ワクチンが入手できない場合、従来型ワクチンが提供されるべき。中等度から高度の免疫不全、または重症化リスクの高い12-17歳の人に対してオミクロン株対応ワクチンを提供し得る。
- 前回の新型コロナウイルス接種から6か月以上の間隔を空けて接種し得る。疫学的状況や実施の容易さに応じて接種間隔は最短3か月まで短縮し得る。(2022/9/1)
- オミクロン株対応ワクチン (**BA.1対応型又はBA.4/5対応型**) を従来型ワクチンよりも優先して接種できる。
- 推奨される最短接種間隔は6か月。但し、80歳以上の高齢者、療養施設入居者、免疫不全の者については3か月。(2022/9/20)

# 2022年秋以降の新型コロナウイルス追加接種及びオミクロン株対応ワクチンの接種に係る諸外国の状況

オミクロン株対応ワクチンを使用した2022年秋以降の追加接種方針が各国から発表されている。

## 2022年秋以降の追加接種に関する方針 (接種間隔、使用ワクチン等)

- (2022/9/20の声明で、追加接種について以下の推奨が発出されている。)
- 12歳以上の者に対する追加接種としてオミクロン株対応ワクチン (**BA.1対応型又はBA.4/5対応型**) を使用することが好ましい。
  - 追加接種は前回接種から6か月の間隔を空けて接種される。)
    - オミクロン株対応ワクチン (**BA.4/5対応型**) を使用する。
    - 前回接種から少なくとも3か月の間隔を空けて接種される。(2022/9/20)

## 2022年秋以降の追加接種予定対象者

- (2022年秋以降の追加接種について発表なし)
- イスラエル 保健省
    - 追加接種を推奨：65歳以上の者、医療従事者、介護施設の入居者及び介護者、基礎疾患を有する者、免疫抑制剤服用者、受刑者及び看守、学校・保育園の先生、妊娠中の者。
    - 追加接種し得る：**12歳以上**の全ての者。

## 国際連合 WHO (未発表)

- (2022/6/17の声明で、現在利用可能なデータは、ワクチン組成にオミクロン株を含めることが有益である可能性が高いことを示していると表明。)
- (2022/5/17の声明で、冬期がある国々では、初回シリーズの完了率やハイリリスクグループへの追加接種率を向上させる必要があると表明。)

## EU

- (2022/9/6の声明で、オミクロン株対応ワクチンの追加接種の対象者に関して以下の推奨が発出されている。)
- 追加接種が優先的に実施されるべき
    - 重症化リスクの高い者：高齢者、免疫不全の者、基礎疾患を有する12歳以上のハイリスク者、妊婦。
    - 長期介護施設の入居者及び職員
  - 追加接種が検討されるべき：医療従事者。)

- 使用するワクチンの種類よりも適切なタイミングでの接種が重要。オミクロン株対応ワクチンがまだ利用できない場合、従来型ワクチンの使用を検討するべき。(2022/9/6)
- (2022/9/12にオミクロン株対応ワクチン (BA.1対応型及びBA.4/5対応型) が承認されている。前回接種から最短3か月の間隔を空けて追加接種し得る。)

## <オミクロンワクチン接種方針について>

**Q1.** オミクロン株対応ワクチンは何回接種するのか。

- 1回です。
- 過去の接種歴の違いにより、オミクロン株対応ワクチンの接種が3回目、4回目、5回目になる場合がありますが、いずれの場合でも現時点ではオミクロン株対応ワクチンの接種は1回になります。

**Q2.** オミクロン株対応ワクチンを接種した後は、どのワクチンを接種するのか。

- 現時点では、初回接種（1・2回目接種）完了者は、3回目接種以降はオミクロン株対応ワクチンを1回接種することとしています。その後のワクチン接種については、今後、科学的知見等の収集に努める中で検討することになります。

**Q3.** BA.1対応型ワクチンを接種した後は、BA.4-5対応型ワクチンを接種するのか。

- 現時点では、初回接種（1・2回目接種）完了者は、3回目接種以降はオミクロン株対応ワクチン（BA.1対応型又はBA.4-5対応型）を1回接種することとしています。その後のワクチン接種については、今後、科学的知見等の収集に努める中で検討することになります。

## ＜ワクチン事業の実施について＞

**Q4.** 初回接種（1・2回目接種）はいつまで実施するのか。

- 新型コロナウイルスの特例臨時接種の実施期間中（～令和5年3月31日）は、初回接種を実施しますが、オミクロン株対応ワクチンでの接種を希望される方は、年内を目途に従来型ワクチンでの初回接種（1・2回目接種）を行うよう、住民への周知をお願いします。

**Q5.** 追加接種（3・4回目接種）で従来ワクチンを使用できるのか。

- 現時点では、初回接種（1・2回目接種）完了者は、3回目接種以降はオミクロン株対応ワクチンを1回接種することとしています。
- ただし、接種機会が到来していても従来ワクチンしか入手できない場合などは、従来型ワクチンによる追加接種を実施しても差し支えありません。

## <予約について>

Q6. 従来ワクチンの接種を受けるつもりで接種の予約をしていた住民がオミクロン株対応ワクチンの接種を受けることになる場合、ワクチンの変更についての説明すればよいが。

- 従来より行っているように、予診の際などに、被接種者に、予防接種の有効性、安全性等を説明・情報提供する中で、ワクチンの変更についてもお知らせするようにしてください。

## <接種券について>

Q7. 4回目接種完了者へは10月末までに接種券を送付するよう示されているが、これは接種時期が到来していない者にも10月末までに接種券を配布するという趣旨か。

- オミクロン株対応ワクチン接種の接種間隔については、安全性等の観点から、現時点では5か月以上とすることが適当であるとされたものの、今後、海外の科学的知見等を踏まえて、短縮する方向で検討し、10月下旬までに結論を得る予定としています。
- 現行の接種間隔に基づくと接種時期の到来が11月以降になると考えられる方についても、接種間隔が短縮された場合、11月初頭から直ちに接種時期が到来することとなる可能性もあるため、10月末までに全ての接種対象者への接種券配布が可能となるような準備を進めていただくようお願いいたします。

## <ワクチンの効果について>

**Q8.** BA.1 対応型ワクチンとBA.4-5対応型ワクチンのどちらのほうが効果があるか。いずれBA.4-5対応型ワクチンを接種できるようになるのであれば、BA.1 対応型ワクチンの接種は控えたいという住民の方に対してどのように説明すればよいか。

- 現時点の知見を踏まえた専門家による検討では、免疫を刺激する性質を比較した場合、従来株と現在流行しているオミクロン株との差と比較すると、オミクロン株の中での種類（BA.1とBA.4-5）の差は大きくないことが示唆されています。オミクロン株対応ワクチンは、オミクロン株の種類（BA.1とBA.4-5）に関わらず、オミクロン株成分を含むことで、現在の流行状況では従来型ワクチンを上回る効果があること、オミクロン株と従来株の2種類の成分が含まれることで、今後の変異株に対しても有効である可能性がより高いことが期待されています。
- そのため、その時点でオミクロン株成分を含む接種可能なワクチンを接種いただくようお願いします。

**Q9.** オミクロン株対応ワクチンが追加接種のみで初回接種として接種されないのはなぜですか。

- オミクロン株対応ワクチンは、現時点で追加接種として臨床試験がなされており、追加接種の用法のみで薬事承認がなされています。今後、新たなデータが得られれば初回接種の用法も含めて薬事承認がなされることも考えられますが、現時点では、薬事承認に基づき、初回接種としては接種しないこととしています。

## <その他>

**Q10.**小児用ワクチンで初回（1・2回目）接種を終了した児童が、追加（3回目）接種を

受ける時点で12歳に到達している場合、12歳以上のワクチンを接種すると説明があった。この場合、3回目接種は、

- ・12歳以上の従来ワクチンは未接種のため、初回接種として従来ワクチンを接種するのか、
- ・初回接種完了者として、オミクロン株対応ワクチンを接種するのか、どちらか。



- ・小児用ワクチンで初回接種を完了してまいりますので、オミクロン株対応ワクチンを接種してください。



## ＜会場でのBA.1対応型ワクチンとBA.4-5対応型ワクチンの取扱いについて＞

**Q11.** BA.4-5対応型ワクチン（ファイザー社）が配送された際、その会場にBA.1対応型ワクチン（ファイザー社）が残っている場合でも、直ちにBA.4-5対応型ワクチン（ファイザー社）の使用を開始してよいのか。

- オミクロン株の成分が含まれた2価ワクチンは、いずれも従来ワクチンを上回る効果が期待されていますので、できるだけ早くいずれかの種類の2価のワクチンを接種いただくようお願いしています。
- また、ワクチンには有効期限がありますので、無駄にならないよう、有効期限の到来が早いものから順に使うようにしていただくと必要がありません。
- BA.1対応型ワクチンからBA.4-5対応型ワクチンに切り替える際、一時的に、両方のワクチンを同じ会場で同時に使用することも差し支えありません。

**Q12.** 接種会場でBA.1対応型ワクチン（ファイザー社）とBA.4-5対応型ワクチン（ファイザー社）を混同した場合、間違い接種となるか。

- 従来ワクチンとオミクロン株対応2価ワクチンとを混同した場合は、間違い接種になりませんが、ファイザー社のBA.1対応型ワクチンとBA.4-5対応型ワクチンは、いずれも対象者や用法・用量が同じですので、両者を混同しても間違い接種にはなりません。

## ＜会場でのBA.1対応型ワクチンとBA.4-5対応型ワクチンの取扱いについて＞

**Q13.** BA.1対応型ワクチン（ファイザー社）を使用する接種会場と、BA.4-5対応型ワクチン（ファイザー社）を使用する接種会場は、別の会場とする必要はあるか。



- オミクロン株の成分が含まれた2価ワクチンは、いずれも従来ワクチンを上回る効果が期待されていますので、できるだけ早くいずれかの種類の2価のワクチンを接種いただくようお願いしています。
- BA.1対応型ワクチンとBA.4-5対応型ワクチンは、いずれも同じオミクロン株対応2価ワクチンですので、必ずしも会場を別にする必要はありません。

## ＜ BA.1 対応型ワクチンとBA.4-5 対応型ワクチンの選択について＞

**Q14.** BA.1 対応型ワクチンの接種を受けるか、BA.4-5 対応型ワクチンの接種を受けるか、予約時に住民が選択できるようにする必要があるのか。

- オミクロン株の成分が含まれた2価ワクチンは、いずれも従来ワクチンを上回る効果が期待されていますので、できるだけ早くいずれかの種類の2価のワクチンを接種いただくようお願いしています。
- 予約枠の提供に際しては、使用するワクチンがBA.1対応型ワクチンであるかBA.4-5対応型ワクチンであるかを明示する必要はありません。  
(参考) コロナワクチンナビ (国が整備する国民向けサイト) においては、BA.1対応型ワクチンであるかBA.4-5対応型ワクチンであるかを明示せず、例えば「ファイザー (2価)」と表示。
- なお、接種の状況等に応じて、自治体の判断で各会場がどちらのワクチンを使用しているかなどを情報提供することも可能と考えられますが、既にお示ししているワクチンの配分計画は、BA.1対応型ワクチンとBA.4-5対応型ワクチンを合わせて、必要な量を配分する予定であることを留意してください。

**Q15.** BA.1 対応型ワクチンかBA.4-5 対応型ワクチンか、選択したいと言われた場合、住民にどのように説明すればよいか。

- オミクロン株の成分が含まれた2価ワクチンは、いずれも従来ワクチンを上回る効果が期待されていますので、できるだけ早くいずれかの種類の2価のワクチンを接種いただくようお願いしています。
- また、いずれの2価ワクチンも従来ワクチンを上回る効果が期待できるものであることなどを説明したリーフレットを提供する予定です。接種希望者の方などへの説明に、適宜、ご活用いただければと思います。

### <ワクチンの供給について>

**Q16.** 「令和4年中にすべての接種対象者が接種可能となる量のワクチン」を供給するとのことだが、BA.1対応型ワクチンとBA.4-5対応型ワクチンの各供給量はどうか。  
BA.4-5対応型ワクチンは、今後さらに追加供給されるのか。

- オミクロン株の成分が含まれた2価ワクチンは、いずれも従来ワクチンを上回る効果が期待されていますので、できるだけ早くいずれかの種類の2価のワクチンを接種いただくとよいと思います。
- ワクチンについては、輸入されたものから順次配送することとしています。すでに配分計画をお示しているとおり、ワクチンはBA.1対応型ワクチンとBA.4-5対応型ワクチンの2つを合わせて、対象者の方の接種に必要な量を配分する予定です。
- BA.4-5対応型ワクチンについては、今後も配送したいと考えていますが、詳細については追って知らせします。

**新型コロナウイルスワクチン接種  
リーフレット**

〈 新型コロナウイルスワクチン接種 〉

オミクロン株に対応した  
2価ワクチンの接種が開始されます。

年内に、希望する全ての方が接種するのに十分な量のワクチンを供給しますので、一時的に予約が取れなくても、安心してお待ちください。

順次、市町村から案内がありますので、ぜひ接種をご検討ください。

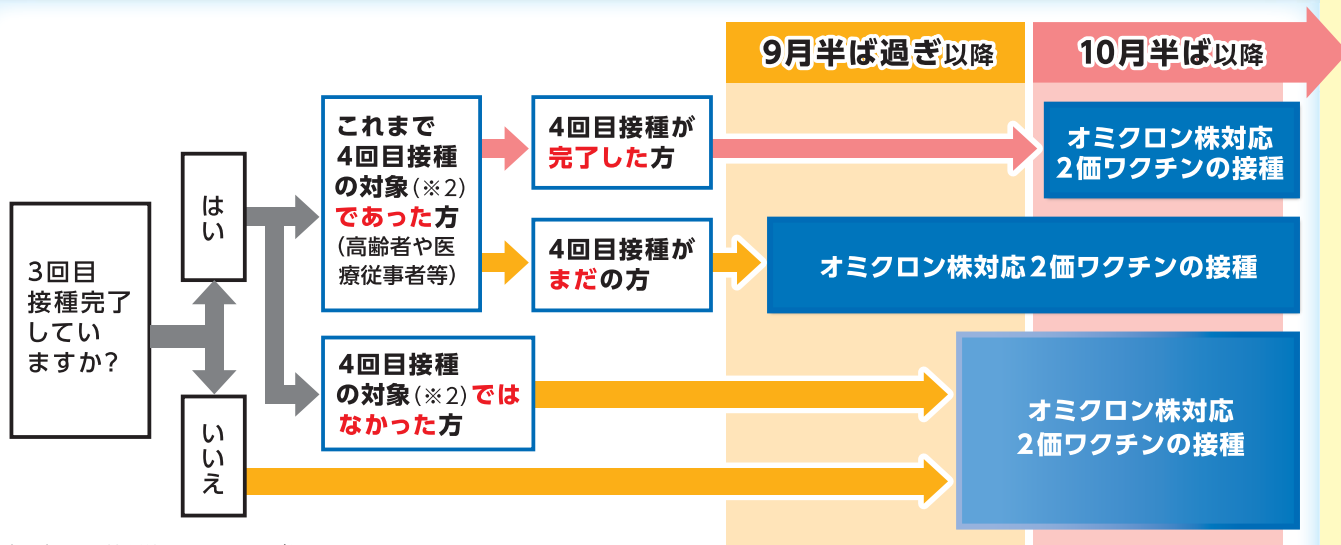


オミクロン株対応2価ワクチン接種対象と接種開始時期



- 新型コロナの従来株とオミクロン株に対応したワクチン(「オミクロン株対応2価ワクチン」)の接種は、**初回(1・2回目)接種を完了した12歳以上の全ての方が対象で、一人1回接種**できます。
- 4回目接種の対象者で接種を受けていない方を優先して接種を始めますが、予約に空きがあれば、初回接種を完了した12歳以上で最終接種から5か月(※1)以上経過している方は接種可能です。  
(※1) 2022年9月14日時点。接種間隔の短縮等について検討し、10月下旬までに結論を得る予定です。
- 詳しくはお住まいの市町村にお問い合わせください。

接種対象：初回接種(1・2回目接種)が完了している方



(※2) 3回目接種終了から5か月が経過し、

①60歳以上の方 ②18歳以上で基礎疾患を有する方その他重症化リスクが高いと医師が認める方 ③医療従事者等及び高齢者施設等の従事者など

初回接種(1・2回目接種)がまだの方

**従来型ワクチン(※3)による接種を完了してください。**

接種から5か月が経過した後に、オミクロン株対応2価ワクチンを追加接種することが可能になります。

(※3) 新型コロナの従来株に対応した1価ワクチン



使用するワクチン



オミクロン株対応2価ワクチン	1・2回目接種対象者	3回目以降の接種対象者		
		12歳以上	12歳以上	18歳以上
ファイザー社ワクチン	× (使用不可)	12歳以上	○	○
モデルナ社ワクチン	× (使用不可)	18歳以上	×	○

■ 2022年9月時点では、オミクロン株対応2価ワクチンは、11歳以下は接種対象となりません。

これまで2年間、年末年始に新型コロナは流行しています。2022年の年末までに、重症化リスクの高い高齢者等はもとより、若い方にもオミクロン株対応2価ワクチンによる接種を完了するようおすすめします。

〈日本国内の新規感染者数(1日ごと)〉



## オミクロン株対応2価ワクチンの効果

### ■従来型ワクチンを上回るオミクロン株への効果が期待されています。

オミクロン株対応ワクチンの追加接種には、オミクロン株の成分が含まれるため、従来型ワクチンと比較した場合、オミクロン株に対する重症化予防効果、感染予防効果、発症予防効果それぞれに寄与する免疫をより強く誘導します。

そのため、オミクロン株に対して、従来型ワクチンを上回る**重症化予防効果**とともに、持続期間が短い可能性があるものの、**感染予防効果**や**発症予防効果**も期待されています。

### ■2価のワクチンであることにより、様々な新型コロナウイルスに反応します。

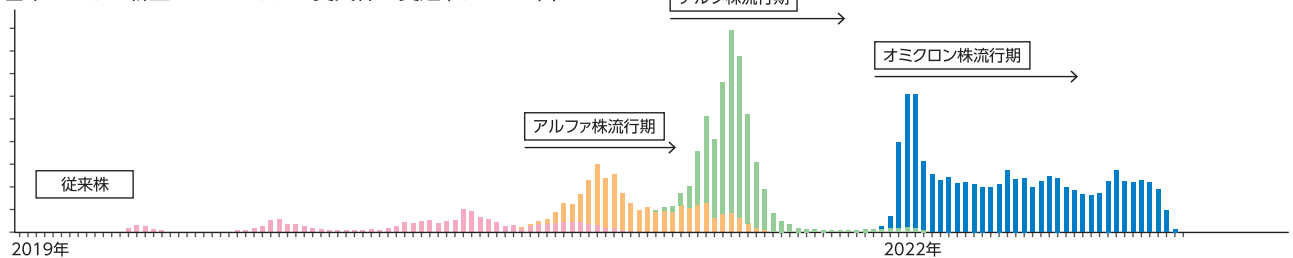
異なる2種類の抗原があることにより、誘導される免疫も、より多様な新型コロナウイルスに反応すると考えられます。

そのため、**今後の変異株に対して有効である可能性**がより高いことが期待されています。

(※4) 2022年8月現在の科学的知見を踏まえた専門家の議論をもとに記載しています。今後、知見の蓄積等によりアップデートされる可能性があります。

出典：新型コロナワクチンの製造株に関する検討会 第二次取りまとめ

〈日本における新型コロナウイルス変異株の変遷(イメージ)〉



## オミクロン株対応2価ワクチンの安全性

ファイザー社及びモデルナ社の2価ワクチンの薬事承認において、**どちらのワクチンも従来型ワクチンとおおむね同様の症状が見られました。**

〈接種後7日間に現れた症状〉

発現割合	症 状	
	ファイザー社	モデルナ社
50%以上	注射部位疼痛	注射部位疼痛、疲労
10～50%	疲労、筋肉痛、頭痛、悪寒、関節痛	頭痛、筋肉痛、関節痛、リンパ節症、悪寒、悪心・嘔吐
1～10%	下痢、発赤、腫脹、発熱、嘔吐	紅斑・発赤、腫脹・硬結、発熱

出典：特例承認に係る報告書より改編

### ◎ワクチンを受けるにはご本人の同意が必要です。

ワクチンを受ける際には、感染症予防の効果と副反応のリスクの双方について、正しい知識を持っていただいた上で、ご本人の意思に基づいて接種をご判断いただきますようお願いいたします。受ける方の同意なく、接種が行われることはありません。

職場や周りの方などに接種を強制したり、接種を受けていない人に対して差別的な対応をすることはあってはなりません。

### ◎予防接種健康被害救済制度があります。

予防接種では健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。極めてまれではあるものの、なくすことはできないことから、救済制度が設けられています。申請に必要な手続きなどについては、住民票がある市町村にご相談ください。

新型コロナワクチンの有効性・安全性などの詳しい情報については、厚生労働省ホームページの「新型コロナワクチンについて」のページをご覧ください。

厚労 コロナ ワクチン

検索

ホームページをご覧になれない場合は、お住まいの市町村等にご相談ください。



初回接種(1・2回目接種)がまだお済みでない方へ



**年内に**1・2回目接種を

完了することを  
ご検討ください。



1・2回目  
は年内に

現時点での情報

1

1・2回目接種に使用している従来型ワクチン(※)は、**年内で、国からの供給を終了する予定です。**

初回接種またはオミクロン株に対応した2価のワクチン(オミクロン株対応2価ワクチン)での追加接種をご希望の方は、なるべくお早めに受けてください。詳しくはお住まいの市町村にお問い合わせください。

(※) 従来型ワクチンを使用します。詳しくは、2ページ目のQ1をご覧ください。

2

オミクロン株対応2価ワクチンは、**1・2回目接種が完了しないと接種できません。**

本年9月20日よりオミクロン株対応2価ワクチンによる接種を開始しています。オミクロン株対応2価ワクチンは、1・2回目接種を完了した12歳以上の方が対象で、1人1回接種します。

このワクチンはオミクロン株に対して、従来型ワクチンを上回る重症化予防効果とともに、持続期間が短い可能性があるものの、感染予防効果や発症予防効果も期待されています。

オミクロン株対応2価ワクチンは、追加接種として臨床試験を実施し、有効性・安全性が確認されているため、従来型ワクチンによる1・2回目接種を完了している方が対象です。

(注) 接種間隔の短縮等について検討し、10月下旬までに結論を得る予定です。

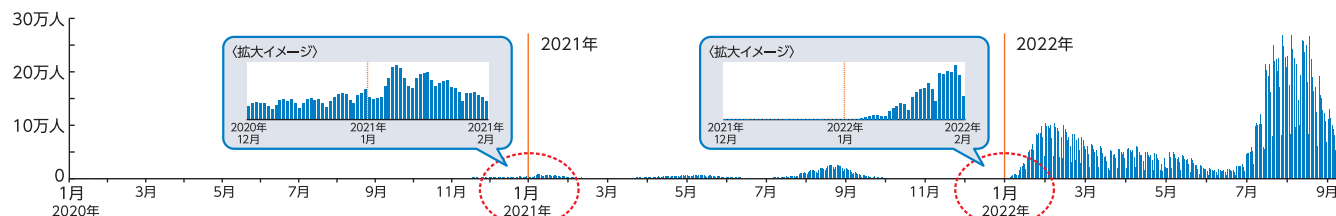
3

**年末年始の新型コロナの流行に備えましょう。**  
計画的なワクチン接種をご検討ください。

これまで2年間、年末年始の後に新型コロナは流行しています。

流行に備えて、重症化リスクの高い高齢者等のもとより、若い方にもオミクロン株対応2価ワクチンによる接種をおすすめしています。

■日本国内の新規感染者数(1日ごと)



出典：厚生労働省ホームページ「国内の発生状況」をもとに作成



## よくあるご質問

### Q1. 新型コロナワクチンの初回接種(1・2回目接種)にはどのようなワクチンが使用できますか。

A. 1・2回目接種には、従来型ワクチンを使用します。

従来型ワクチンとは、新型コロナの従来株に対応した1価ワクチンのことで、ファイザー社ワクチン、モデルナ社ワクチン、武田社ワクチン(ノババックス)のいずれかになります。

### Q2. オミクロン株対応2価ワクチンは、初回接種(1・2回目接種)では使用できないのですか。

A. オミクロン株対応2価ワクチンは、追加接種として臨床試験を実施し、有効性・安全性が確認されているため、現時点においては、1・2回目接種としては、使用できません。

オミクロン株対応2価ワクチンを接種するためには、まず従来型ワクチンによる1・2回目接種を完了してください。

### Q3. 1・2回目接種用の接種券が古かったり、なくしてしまったりした場合でも受けることができますか。

A. 受けられます。お住まいの市町村から以前送付された1・2回目接種用の接種券がお手元にある場合は、そちらをお使いください。ワクチンを受けたい医療機関や会場をお探しのうえ、予約をお願いします。

**接種券をなくしてしまった場合は、お住まいの市町村にご連絡ください。**

ワクチン接種の詳しい情報については、こちらをご覧ください。

1・2回目接種 ▶



オミクロン株対応2価ワクチン接種 ▶



### ◎ワクチンを受けるにはご本人の同意が必要です。

ワクチンを受ける際には、感染症予防の効果と副反応のリスクの双方について、正しい知識を持っていただいた上で、ご本人の意思に基づいて接種をご判断いただきますようお願いいたします。受ける方の同意なく、接種が行われることはありません。職場や周りの方などに接種を強制したり、接種を受けていない人に対して差別的な対応をすることはあってはなりません。

### ◎予防接種健康被害救済制度があります。

予防接種では健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。極めてまれではあるものの、なくすことはできないことから、救済制度が設けられています。

申請に必要な手続きなどについては、住民票がある市町村にご相談ください。

感染予防対策を継続していただくようお願いいたします。



密集場所  
「3つの密(密集・密接・密閉)」の回避



密接場面



密閉空間



マスクの着用(※)



石けんによる手洗い



手指消毒用アルコールによる消毒の励行



こまめな換気

(※)屋外では、人と会話をするとき以外は、熱中症を防ぐためにもマスクを外しましょう。

新型コロナワクチンの有効性・安全性などの詳しい情報については、厚生労働省ホームページの「新型コロナワクチンについて」のページをご覧ください。

ホームページをご覧になれない場合は、お住まいの市町村等にご相談ください。

厚労 コロナ ワクチン

検索



オミクロン株に対応した  
2価ワクチンの接種が開始されました。



## 【第2報】

# ワクチンの種類が増えました。 BA.1かBA.4-5の いずれか早く打てるワクチンで 1回接種をしましょう。



### 接種の対象と使用するワクチン



- 新型コロナの従来株とオミクロン株に対応したワクチン(「オミクロン株対応2価ワクチン」)の接種は、**初回接種(1・2回目接種)を完了した12歳以上の全ての方が対象で、一人1回接種**できます。
- 1・2回目接種を完了した12歳以上で最終接種から5か月(※)以上経過している方は接種可能です。  
(※) 2022年10月7日時点。接種間隔の短縮等について検討し、10月下旬までに結論を得る予定です。
- 詳しくはお住まいの市町村にお問い合わせください。

〈 オミクロン株対応2価ワクチンの種類 〉	1・2回目接種対象者	3回目以降の接種対象者		
		12歳以上	12歳以上	18歳以上
ファイザー社ワクチン 【BA.1対応型／BA.4-5対応型】	× (使用不可)	12歳以上	○	○
モデルナ社ワクチン 【BA.1対応型】	× (使用不可)	18歳以上	×	○

(※) 2022年10月時点では、オミクロン株対応2価ワクチンは、11歳以下は接種対象となりません。



### オミクロン株対応2価ワクチンの種類と特徴



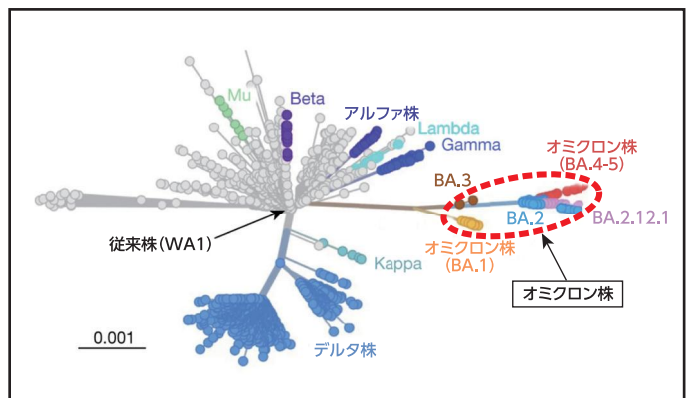
**2種類の2価ワクチン(BA.1対応型／BA.4-5対応型)が使用可能ですが、いずれも従来型ワクチン(※)を上回る効果が期待されます。**

(※) 新型コロナの従来株に対応した1価ワクチン

- 2価ワクチンは、従来株の成分に加え、オミクロン株の成分が含まれています。オミクロン株の成分に2つの種類(BA.1とBA.4-5)があるため、2種類のワクチンがあります。その効果は以下の通りです。

- BA.1、BA.4-5は、いずれもオミクロン株の種類(亜系統)です(右図参照)。そのため、BA.1対応型であっても、BA.4-5対応型であっても、現在流行の中心であるオミクロン株に対しては、1価の従来型ワクチンを上回る効果が期待されています。
- また、BA.1対応型であっても、BA.4-5対応型であっても、従来株とオミクロン株の2種類の成分があることにより、誘導される免疫も、より多様な新型コロナウイルスに反応すると考えられます。

〈 新型コロナウイルスの変異株の枝分かれ(系統樹) 〉



(※) 出典をもとに改変

出典: Wang, Q., Guo, Y., Iketani, S. et al. Antibody evasion by SARS-CoV-2 Omicron subvariants BA.2.12.1, BA.4 and BA.5. Nature 608, 603-608 (2022).

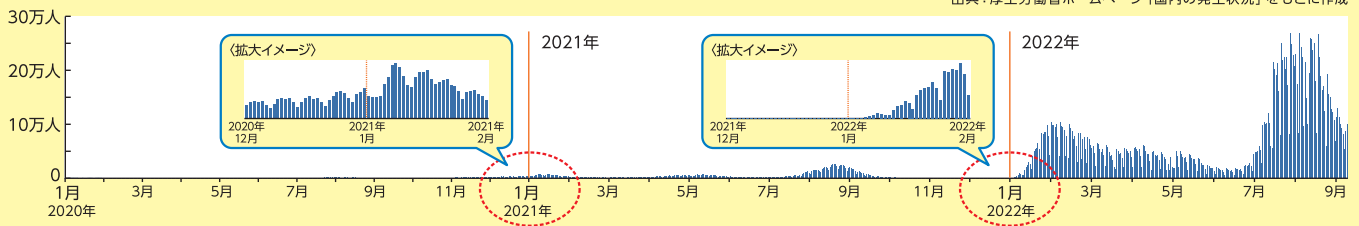
以下、「オミクロン株に対応した2価ワクチンの接種が開始されます【第1報】」の再掲です。

【第1報】はこちらから→



これまで2年間、年末年始に新型コロナは流行しています。2022年の年末までに、重症化リスクの高い高齢者等はもとより、**若い方にもオミクロン株対応2価ワクチンによる接種を完了するようおすすめします。**

〈日本国内の新規感染者数(1日ごと)〉



出典：厚生労働省ホームページ「国内の発生状況」をもとに作成

## オミクロン株対応2価ワクチンの効果

### ■ 従来型ワクチンを上回るオミクロン株への効果が期待されています。

オミクロン株対応2価ワクチンの追加接種には、オミクロン株の成分が含まれるため、従来型ワクチンと比較した場合、オミクロン株に対する重症化予防効果、感染予防効果、発症予防効果それぞれに寄与する免疫をより強く誘導します。

そのため、オミクロン株に対して、従来型ワクチンを上回る**重症化予防効果**とともに、持続期間が短い可能性があるものの、**感染予防効果**や**発症予防効果**も期待されています。

### ■ 2価のワクチンであることにより、様々な新型コロナウイルスに反応します。

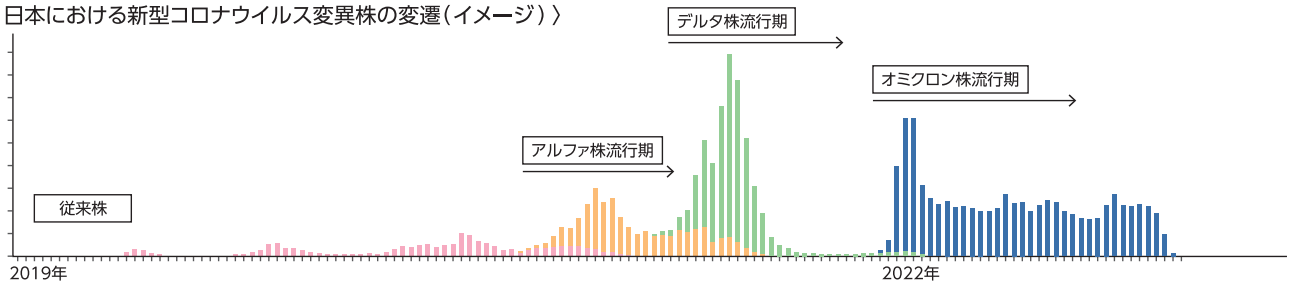
異なる2種類の抗原があることにより、誘導される免疫も、より多様な新型コロナウイルスに反応すると考えられます。

そのため、**今後の変異株に対して有効である可能性**がより高いことが期待されています。

(※4) 2022年8月現在の科学的知見を踏まえた専門家の議論をもとに記載しています。今後、知見の蓄積等によりアップデートされる可能性があります。

出典：新型コロナワクチンの製造株に関する検討会 第二次取りまとめ

〈日本における新型コロナウイルス変異株の変遷(イメージ)〉



## オミクロン株対応2価ワクチンの安全性

ファイザー社及びモデルナ社の2価ワクチンの薬事承認において、**どちらのワクチンも従来型ワクチンとおおむね同様の症状が見られました。**

〈接種後7日間に現れた症状〉

出典：特例承認に係る報告書より改編

発現割合	症状	
	ファイザー社	モデルナ社
50%以上	注射部位疼痛	注射部位疼痛、疲労
10~50%	疲労、筋肉痛、頭痛、悪寒、関節痛	頭痛、筋肉痛、関節痛、リンパ節症、悪寒、悪心・嘔吐
1~10%	下痢、発赤、腫脹、発熱、嘔吐	紅斑・発赤、腫脹・硬結、発熱

### ◎ ワクチンを受けるにはご本人の同意が必要です。

ワクチンを受ける際には、感染症予防の効果と副反応のリスクの双方について、正しい知識を持っていただいた上で、ご本人の意思に基づいて接種をご判断いただきますようお願いいたします。受ける方の同意なく、接種が行われることはありません。

職場や周りの方などに接種を強制したり、接種を受けていない人に対して差別的な対応をすることはあってはなりません。

### ◎ 予防接種健康被害救済制度があります。

予防接種では健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。極めてまれではあるものの、なくすことはできないことから、救済制度が設けられています。申請に必要な手続きなどについては、住民票がある市町村等にご相談ください。

新型コロナワクチンの有効性・安全性などの詳しい情報については、厚生労働省ホームページの「新型コロナワクチンについて」のページをご覧ください。

ホームページをご覧になれない場合は、お住まいの市町村等にご相談ください。

厚労 コロナ ワクチン

検索



日医発第 1167 号 (地域)  
令和 4 年 9 月 21 日

都道府県医師会  
担 当 理 事 殿

公益社団法人 日本医師会副会長  
猪 口 雄 二  
( 公 印 省 略 )

### COVID-19 JMAT の登録および損害保険の改定について

貴職におかれましては、COVID-19 JMAT へのご参画並びに多大なるご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。

COVID-19 JMAT の登録および損害保険については、先般、令和 4 年 3 月 1 日付文書「COVID-19 JMAT の登録および損害保険の改定について」(地 523)においてご案内のとおり、これまでに 4 回の改定を行ってまいりました。

令和 4 年 9 月に政府は、新型コロナウイルス感染症に係る発生届の範囲について、重症化リスクの高い方に限定する等の変更を示しました。

これに伴い、保険金の支払い対象となる「入院」につきましては、これまで「宿泊療養や自宅療養」を含めておりましたが、令和 4 年 9 月 26 日の COVID-19 JMAT 登録より、「医療機関への入院、または、「重症化リスクの高い方」の「宿泊療養や自宅療養」のみ「入院」と看做すように変更することとなりました。重症化リスクの高い方とは、(1)65 歳以上の方、または、(2)入院を要する方、または、(3)妊婦、または、(4)重症化リスクがあり新型コロナ治療薬の投与または新型コロナウイルス感染により酸素投与が必要な方を指します。

なお、「感染一時金」については、引き続き重症化リスクの有無にかかわらず、支給の対象とされております。

つきましては、貴会におかれましても、本件ご了知いただくとともに、貴会管下の郡市区医師会並びに関係行政機関等への周知方につきご高配を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

# COVID-19JMAT保険における運用変更対応について（まとめ）

## 「入院」について

保険金支払いの対象である「入院」とは、医療機関に入院した場合の他、「重症化リスクの高い方」(\*)の宿泊療養や自宅療養が該当します。

治療・療養の場所		病院・診療所	宿泊療養施設・自宅	
対象の方			重症化リスクの高い方(*)	左記以外の方
医師に新型コロナウイルス感染症と診断された日	2022年9月26日より前	○	○	○
	2022年9月26日より後	○	○	×

(※)

- 1) 65歳以上の方
- 2) 入院を要する方
- 3) 妊婦
- 4) 重症化リスクがあり、新型コロナウイルス治療の投与または新型コロナウイルスにより酸素投与が必要な方

## 「感染一時金」について

派遣活動中に新型コロナウイルスに感染した場合、医師（歯科医師を含む）1名につき100万円／医師以外1名につき50万円を補償します。（変更なし）

COVID-19JMATによる派遣		医師	医師以外
派遣活動中に新型コロナウイルスに感染	2022年9月26日より前	○	○
	2022年9月26日より後	○	○